

IELTSのスコアを伸ばすには？

留学に必要な英語力を証明するための英語テスト。IELTSもその一つです。要求されるスコアを満たさなければならず、テストに合わせた学習が必要です。

メルボルン大学卒業生で、現在はオーストラリアで教師をしている山本善樹さんにIELTSの勉強法について伺いました。

<山本さん経歴>

日本の公立高校卒業後、龍谷大学2年次からメルボルン大学に編入学

2011年メルボルン大学人文学部卒業 (Bachelor of Arts) 1学期NZのオークランド大学に交換留学

2012年ビクトリア大学教職課程修了 (Graduate Diploma in Secondary Education)

2018年メルボルン大学大学院教育学修了 (Master of Education)

■ 留学に必要な英語力試験のIELTSをパスする為に必要だったこと

オーストラリアで留学に必要な英語力、多くの方が条件付き入学オファーを大学や専門学校コースからもらって最初のチャレンジとなるのがIELTS(アカデミック)でした。

もちろん、メルボルン大学入学の為に6.5が必要でした。

今回は、大体のコースで必要な全て6.0以上平均6.5を目指す方むけに僕がパスする為にしたことを紹介します。

僕は実際に何度もIELTSを受けてたくさんお金を無駄にしてしまいましたが、出来れば一回で希望スコアを取得したいところです。

実際に6.5をパスするまでにはいろいろと練習や勉強が必要でした。特に重点を置いたのは

- **語集力の強化** ([Quizlet](#)を使っての反復運動)
- **キーワード探し** : スキャニングとスキミングの上達
- IELTSの過去問やリスニング練習で**耳を慣らす**こと
- 自分で使える**ライティング表現を構築**

■ 希望スコアを獲得するには？

とにかく希望スコアを獲得するにはテストについてよく知ることが大切です。

リーディング

- 40問
- 問題問わず1問1点：解ける問題から、わからないのは後回し
- キーワードを見つけられるようにするため多くの分野のリーディングが必要（過去問を利用し練習する）
- 時間配分を徹底する（3セクションを15-17分ずつで終わらせる）
- 6以上を目指す場合最低でも23-26問以上の正解が必要

ライティング

- 1時間で2つのセクションを回答
- 練習で色々な表現が必要
- どのトピックでも通用する自分の型をもって練習すること
- 最低ワード数をクリアすること(Task 1:150語 Task 2:250語以上を書く)
- 問題に答えていること：問題に答えられていないと6は厳しい
- タスク1では手順やグラフなどの過程を表す表現が必要
- タスク2ではTEEL形を使った書き方が必要

リスニング

- 流れる音声は1回のみ
- 40問
- 問題問わず1問1点
- 1番簡単に伸ばせる分野（タスク1は満点が取れる可能性が大）
- 問題の答えを予想することができる
- 問題をよく読む：答える語数が決まっている場合があり
- 6以上を目指す場合最低でも23-26問以上の正解が必要

スピーキング

- 3セクション
- セクション2は2分間以上話し続けることが必要
- 答えを端的にしすぎないこと（簡単な質問でも話を広げることが必要）
- 2分間のスピーキングはどのトピックでも通用する自分の型をもって練習すること

■希望スコアに近づく為のコツ

リーディング

リーディングで鍵となってくるのが英語テストよく直面する時間との兼ね合いです。特に1時間で40問を答える中で段落のヘディングを選ぶ問題やT/F/NGなど、非常に時間がかかる問題が多いです。タスク1は簡単な問題が多いですが、タスク2タスク3と長文読解の問題があります。

その上、リーディングで重要なのがキーワード探しです。スキミングとスキヤニングを練習して、キーワード、類似語を問題文より探すことが必要です。

そして各セクションを15-17分程度時間とので終わらせる様にします。

<アプローチ方法>

- **問題を先に読み、問題内のキーワードと思われる言葉に印をつけたり下線を引いたりする**
- **スキミングをし、大体のリーディングの内容を理解する**

慣れるまでは時間がかかりますが、慣れると段落の初めの文と最後の文でその段落をいち早く理解できるようになります。

[TIME MAGAZINE](#)や[Entrepreneur](#)などで練習することがおすすすめ。

リスニング

リスニングは4つのテストの中で一番スキルが伸ばし易いエリアです。試験時間は約30分で、問題自体はジェネラル・アカデミック共に同じです。

タスク1のフォーム入力からタスク4のアカデミックレクチャーまで問題は幅広いですが、これもリーディングの対策同様キーワードを問題文からみつけることができます。

<アプローチ方法>

- **最初の数分の説明がなされる部分がリスニング問題を全てチェックするチャンス**

*特に最後のページまで必ずチェックしましょう。リスニングを聞いているけど問題が見当たらない、リスニングが流れている最中にもう1ページあることに気づいてもう手遅れ、問題を丸ごとミスしてしまうこともあります。

- **メモを常にとる練習する**
- **それぞれの問題の重要なキーワードに、はっきり印をつける!**

各セクションで説明文の中に注意書きがあります。答え自体はあってもこの説明に従わないと×。このミスで0.5減点なんてこともありえます。

- **自由時間内に見た問題や選択肢である程度流れる内容を簡単に予想する**

メモ書きでもいいです。例えばホテルに関する話なら、予約もしくはクレームに関してなどです。表をみるだけでも単語か数字かなどの違いもわかります。

ライティング

ライティングが一番手間のかかるセクションかもしれません。実際にIELTSを受けた際に、ライティングがパスをするまでに一番時間がかかりました。

過去にIELTSを受けた時に、0.5足りなかったことがあります。IELTS7.0 必要だった時に何度も6.5をとり悔しい思いをしました。

IELTSのライティングで6をパスするには最低限問題に答えている必要があります。ライティングのスコアはタスク1とタスク2の平均でマークされます。

ライティングをパスするには多くの練習が必要です。特にマークを減らしやすいのが簡単な文法ミス（スペルミスや三単現S忘れ）などです。

<アプローチ方法>

- 問題をよく読み、キーワードに下線を引く
- タスク1で必要な表現集（グラフや図など）や、よく使われる表現をマスターする
- しっかりエッセイのプランを立てる（エッセイ計画は重要です）
- 規定の文字数を書くこと(250-275位でまとめる)
- 首尾一貫性があること
 - [TEEL](#)形（Topic Sentence/Explain/Evidence/Link）を使ったパラグラフの書き方を練習する。
- 文法のミスを少なくすること（スペル／三単現のS）
- 普段使っている単語を高レベルの単語に置き換えられるかを確認する
 - 例えば minimise->mitigate
 - Important ->imperative
 - understand->comprehend
- 自分のライティングの書き方を2-3パターン準備する
- 練習の時からGrammarlyなどの文法確認ソフトを使って自分のライティングをチェックする
 - Grammarlyを使うと簡単なミスを少なくすることができます。
- ネイティブに添削してもらおう



[IELTS online](#) は、ライティングとスピーキングの添削をしてもらえます。模擬試験やライブチャットサポートがあり心強いです。

ネイティブだからわかるニュアンスの違いなど指摘してもらえると、ライティングの質が上がります。

スピーキング

スピーキングは3セクションあり、トピックは幅広く聞かれますが、対策をうまくすれば伸ばしやすいエリアです。1-2分話し続けるのはトピックによっては難しいかもしれません。テストはスピーキングの内容だけでなく、使っている表現や話す時の発音・テンポなどが評価されます。

<アプローチ方法>

- **簡単な問題では、単的な答えではなく内容を広げる**
- **ライティング同様自分のスタイルを構築する**
例えば、スピーチをする際にThis topic actually reminds me of....などで始める。
- **話すときに起承転結に注意する**
- **普段使っている単語を難しい表現やイディオムに変換できるか確認し、そして使う**
- **自分のスピーキングのスキriptを作り、大きく声に出して読み何度も何度も練習する。そして、自分のスピーキングを録音して確認する**

■ライティングとスピーキングで重要なこと

ライティングとスピーキングに関しては採点基準をチェックします。

どのようにスピーキングとライティングが評価されるかを知っておく必要があります。

参照

[IELTSスピーキング採点表](#)

[IELTSライティングタスク1採点表](#)

[IELTSライティングタスク2採点表](#)

■最後に IELTSはゴールではなく通過点

IELTSやTOEFLをパスするには、今ある内容に少し変化を加えるだけで大幅にレベルアップすることができます。IELTSをパスできるとこれからの英語学習の大きな自信になります。

しかし、英語テストをパスすることはゴールではなく、大学・大学院留学などのスタート地点にたつことです。ここからが勝負です。大学に入ると新たな単語や表現が常に出てきます。

その為に、常に英語ニュースなど毎日新しい表現に触れ合う様に習慣化することが大切です。IELTSの希望スコア取得に向けてこの記事がお役に立てれば幸いです。